

新 着 資 料 の 紹 介

資 料 室

1) **М.А.Кашкай(1965)** : 『Петрология и металлогения Дашкесана и других железорудных месторождений Азербайджана (アゼルバイジャン共和国ダシュケサンなど諸鉄鉱床の地質と鉱床)』, ネードラ出版所, モスクワ, 888 p., 図 313, 写真286, 表261, 27 × 19 cm (本文: 露語, 抄録: 英語)

目 次

第1部 ダシュケサン地区の地質・岩石と鉱床

第1章 概説

ダシュケサン鉄鉱床研究史

地域の経済地理の特徴 鉱床の水理地質条件 水理学的特徴 気候

第2章 層序と堆積相

ダシュケサン地域の層序

中部ジュラ系 上部ジュラ系 カロブ統とオクスフォード統 デリコシユガルチャヤ川
上流の珩岩類 オクスフォードーキンメリッジ統のルシタニア統 キンメリッジ統 キン
メリッジー下部白亜系 上部白亜系

中生層の地質構造と堆積相の特徴

第3章 ダシュケサン地域の地質発達史と構造地質

構造地質

地質発達史

第4章 ダシュケサン貫入岩類各論

はんれい岩類——第1貫入相

はんれい岩 紫蘇輝石はんれい岩 はんれい岩質紫蘇輝石はんれい岩 はんれい岩質閃緑
岩 閃緑岩と石英閃緑岩 石英閃長閃緑岩

花崗岩類——第2貫入相

アダメライト 花崗閃緑岩 バナタイト トーナライト—石英閃緑岩—閃緑岩 花崗閃
長岩 花崗岩

花崗岩アプライト—アラスカイト——第3貫入相

花崗岩アプライト アラスカイト 優白質アダメライトと優白質花崗閃緑岩 優白質花崗
閃長岩 アプライト

塩基性組成岩脈・小貫入岩——第4貫入相

貫入岩の化学的特徴

はんれい岩類——第1貫入相岩石の化学的特徴 花崗岩類——第2貫入相岩石の化学的特徴
アラスカイト——第3貫入相岩石の化学的特徴 塩基性岩脈——第4貫入相岩石の化学的特徴

第5章 ダシュケサン貫入岩の貫入構造

断裂構造

断裂パターン 第1貫入相の先貫入期断裂構造 貫入コンプレックスのペトロテクトニク
ス マグマ貫入時の構造環境 微構造解析の結果

ダシュケサン貫入岩の節理構造

初期造構造段階での初成割れ目 初成割れ目の分布の特徴 貫入後の割れ目 母岩の節理

第6章 ダシュケサン貫入岩系系の岩石学

貫入岩系系の生成機構

貫入岩系系の相

貫入期と形態

ダシケサン貫入岩岩系の混成作用

ダシケサン貫入岩岩系の岩脈コンプレックス

第2部 ダシケサン鉄鉱床その他の鉄鉱床の特徴

第7章 ダシケサン鉄鉱床

ダシケサン鉄鉱床北部鉄鉱区群

北東鉄鉱区 北西鉄鉱区 北鉄鉱区産鉱石の化学組成

ダシケサン鉄鉱床南部鉄鉱区群

南東鉄鉱区 ピルスルタン鉄鉱区 (デミロフカ鉄鉱区) ダルデレーアフメドラ鉄鉱区

南西鉄鉱区 ゴナフゲルメス鉄鉱区

南部鉄鉱区スカルン鉄鉱体の特徴

ダシケサン鉄鉱床諸鉄鉱区におけるコバルト鉱化作用

第8章 ダシケサン鉄鉱床の側岩の変質の特徴

ホルンフェルスとホルンフェルス質交代岩

大理石

一般的特徴 大理石と石灰岩の物理的・機械的性質

スカルン

スカルン化貫入岩——内スカルン スカルン化側岩——外スカルン ざくろ石スカルン
輝石—ざくろ石スカルン 緑簾石・方解石を伴うざくろ石スカルン 石英・磁鉄鉱を伴う
ざくろ石スカルン 陽起石・緑簾石・石英を伴うざくろ石スカルン ダシケサナイト・
スカルン 磁鉄鉱・赤鉄鉱を伴う鉄石スカルン スカルン周縁の岩石 スカルン生成後
の熱水交代生成体

ダシケサン鉄鉱床のスカルン化作用の諸特徴

ダシケサン貫入岩接触帯の構造

スカルン鉄鉱体の位置と形態

ダシケサン鉄鉱床にみられる交代累帯配列パターン

鉄鉱地区の熱水変質岩脈と岩脈側岩

第9章 ダシケサン鉄鉱床産鉄石の組織と構造

ダシケサン鉄鉱床産鉄石の組織・構造型式

鉄石の構造

鉄石の組織

結晶粒状組織 コロホーム組織 固溶体離溶組織

第10章 ダシケサン鉄鉱床の鉄石構成鉱物

深成鉄物

元素鉄物 硫化鉄物 硫酸鉄物と砒化物 硫酸鉄物 酸化物 珪酸塩鉄物 炭酸
塩鉄物 硫酸塩鉄物 燐酸塩鉄物 ハロゲン化物 (蛍石)

表成鉄物

元素鉄物 硫化鉄物 酸化物と水酸化物 瀝青銅鉄 ベーマイト 珪酸塩鉄物
炭酸塩鉄物 砒酸塩鉄物 硫酸塩鉄物

第11章 ダシケサン鉄鉱床の地質学的生成条件

硫化物鉄化作用と岩石のタイプとの関係

岩脈中および岩脈沿い母岩中の硫酸鉄物・硫化物鉄化作用

第12章 内因性鉄鉱床

ダルバダク (ノーボイバノボ) 赤鉄鉱, 磁鉄鉱鉄床

アラバシュラ (インジルラ) 赤鉄鉱鉄床

チャルダフラ赤鉄鉱露頭とアタベク赤鉄鉱露頭

第13章 堆積性鉄鉱床

ダシュケサン地域の含チタン砂鉄鉱床

シャムホルスク地域の含チタン砂鉄鉱床

カスピ海沿岸レンコラニ・アストラ地区の含チタン砂鉄鉱床

付記・補足

2) С. И. Набокоら編 (1971): 「Вулканизм и глубины Земли (火山作用と地殻の深さ)」, ナウカ出版所, 396 p., 26.5 × 18 cm (露文)

目次

第1部 火山作用と地殻の深さとの関係について

Е. К. Мархинин, Д. С. Стратула: 火山作用と地殻の深さとの関係の岩石学的, 地球化学的, 地球物理学的見地: p. 11-16, 図2, 表5, 文献4

В. И. Федорченко, В. Н. Шилов: クリル列島第四紀火山の諸特徴とその深部過程との関係: p. 16-24, 図1, 表2, 文献16

В. К. Ротман: 太平洋安山岩帯と安山岩火山作用について: p. 25-30, 図2, 文献23

В. А. Апродов: 大陸火山作用発展の新时期地体構造環境: p. 31-35, 文献9

П. И. Токарев: 火山噴火予知の一般法則: p. 35-37

И. И. Гущенкоほか2: 火山帯区分と噴火予知: p. 37-40, 図2, 文献3

Г. Н. Ковалев: 活火山活動のエネルギー論の問題によせて: p. 41-46, 表2, 文献14

Г. Н. Ковалев, Ю. Б. Слезин: 火山の噴火エネルギー蓄積の機構について: p. 46-51, 図1, 文献11

Л. Г. Страхов: 爆裂岩筒の成因について: p. 52-55, 文献9

М. И. Зубинほか3: カムチャツカ半島の第四紀カルデラ: p. 55-66, 図4, 文献11

Н. Н. Кожемяка, Н. В. Огородов: 中央カムチャツカ山脈における第四紀火山作用の地質的影響: p. 66-68, 表1, 文献2

И. В. Мелекесцевほか6: クリルーカムチャツカ火山帯の火山の生成期: p. 68-74, 図2, 文献4

Е. Ф. Малеев: 火山活動活発化の予測問題: p. 75-76, 文献5

Е. Ф. Малеев: 地体構造条件と関係あるマグマ型式の出現法則: p. 77-81, 表1, 文献6

Ю. И. Лялин: 古期造山帯と新时期造山帯における火山活動周期性の比較分析: p. 81-86, 文献6

К. Н. Рудич: サブボルカニック岩体とマグマ分化コンプレックス: p. 87-94, 図2, 文献16

В. И. Влодавец: 広域火山活動と多噴出火山活動について: p. 94-97, 文献14

С. Т. Балеста: 地震波による火道深部「透視」法: p. 98-101, 図5

А. И. Фарберов, А. И. Левыкин: Зокьяг. 以下でのカムチャツカ半島の岩石の弾性波速度: p. 102-107, 図2, 表2, 文献12

В. И. Горельчик, А. И. Фарберов: 地震観測データによる火山帯深部構造の特徴: p. 107-113, 図3, 文献10

П. П. Фирстов, В. А. Широков: 地震データによるクリューチェボ火山群の火山の根の位置: p. 113-117, 図3, 文献7 (2 p. 落丁)

В. И. Горельчик, В. М. Зобин: Камチャツカ半島活火山区における地震群の性質について: p. 118-120 (2 p. 落丁)

Л. Б. Дмитриев: Апачья火山における現世火山成構造運動: p. 120-122 (2 p. 落丁)

О. М. Алыпova: Камチャツカ半島新时期火山岩の熱磁気データによる磁性鉱物の特徴とその深部マグマ晶出条件との関係: p. 122-125, 図2 (2 p. 落丁)

В. В. Наседкинほか2: 組成・圧力・温度による珪酸塩物質の進化の特徴: p. 126-131, 図2, 文献3 (2 p. 落丁)

- Ю. П. Масуренков, О. Н. Волюнец : 火山岩中の残存鉱物 : p. 131-137, 図2, 表3, 文献7
- О. Н. Волюнец : カムチャツカ半島第四紀酸性溶岩中の中間的光学性を有する斜長石とその成因 : p. 138-141, 図1, 表2, 文献9
- Р. И. Родионова, В. И. Федорченко : クリル列島溶岩中の捕獲岩と同地域 深部地質の2・3の問題 : p. 141-147, 図1, 表1, 文献6
- А. Н. Сирин, К. М. Тимербаева : Камチャツカ半島クリューチェボ火山群の出発マグマの組成と2型式の玄武岩について : p. 147-150, 表1, 文献4
- А. Н. Сирин : Камチャツカ半島岩滓テラス地下水路浅所におけるメルトの分化作用とその速度 : p. 150-152
- В. А. Ермаков ほか2 : クリューチェボ火山群の岩石成因論 : p. 152-160, 図3, 表1, 文献6
- Г. Е. Богоявленская ほか2 : 火道上部における安山岩の晶出作用 : p. 161-162
- Л. С. Бородин, В. С. Гладких : 分化玄武岩系中の稀有元素と玄武岩マグマの起源問題 : p. 163-168, 図5, 表2
- С. М. Кравченко : 玄武岩マグマの晶出時におけるカリウムの挙動と塩基性岩系成因的特徴 : p. 168-173, 図2, 文献8
- Э. Н. Елсеев : 塩基性岩のマグマ分化作用におけるチタンの岩石化学的役割 : p. 173-177, 文献14
- Л. Л. Леонова, Н. И. Удальцова : クリル列島火山岩中の稀有元素 : p. 178-181, 表1, 文献6
- Л. Л. Леонова ほか2 : Камチャツカ半島カルイム火山岩中の放射性元素 (U, Th) と稀有アルカリ元素 (Li Rb Cs) : p. 181-185, 表2, 文献5
- Б. И. Злобин ほか2 : 各種タイプの地殻の玄武岩中の銅の地化学異常 : p. 185-189, 図1, 表1, 文献12
- В. Г. Сахно ほか3 : 太平洋帯火山の超塩基性溶岩・捕獲岩の地化学的特徴とその上部マントルとの関係の問題 : p. 189-194, 表3, 文献3
- 第2部 現世熱水系
- Е. А. Вакин ほか2 : 火山区の地熱の基本問題 : p. 197-202, 文献20
- Г. М. Власов : 地熱問題の地質学的立脚点 : p. 202-207, 文献9
- В. В. Аверьев ほか4 : Камチャツカ半島ウゾン-セミャク地熱区の火山作用と熱水 : p. 207-211, 表2, 文献6
- В. Д. Пампура, В. Н. Кочергин : 浅所条件下における熱水系の地熱モデル : p. 211-219, 図7, 文献4
- Ю. Ф. Манухин : Камチャツカ半島地熱区の水交換帯について : p. 219-225, 図1, 表1, 文献12
- В. И. Белоусов, В. М. Сугрбов : Камチャツカ半島南部におけるパウジエト熱泉とカンバリ山地熱区との関係の地質学的立脚点 : p. 225-229, 図1, 文献5
- Г. Ф. Пилипенко : Камチャツカ半島ウゾン地熱区の水理化学異常 : p. 229-238, 図3, 表2, 文献13
- Т. П. Кирсанова : 中央カムチャツカ山脈中のクレイウン谷の熱泉 : p. 239-246, 図3, 表2, 文献4
- Ю. А. Краевой ほか2 : Камチャツカ半島ボリシエーバンナヤ熱水系 : p. 246-253, 図3, 表1, 文献5
- Ю. Ф. Манухин ほか4 : Камチャツカ半島パラツン熱水系 : p. 253-261, 図2, 表2, 文献3
- В. А. Дрозин : 熱水噴気孔の水力学的研究 : p. 262-265, 図2, 表1, 文献4
- И. М. Зайцев : 地球物理学的方法による温泉の水理地熱条件の研究について : p. 265-270, 図4
- В. И. Белоусов : 熱水系分布範囲内に存在する溶結凝灰岩生成問題によせて : p. 270-276, 図1, 表1
- В. М. Дуничев : クナシル島ゴリャーチー浜熱水系地下の溶結凝灰岩 : p. 276-280, 図4, 文献3
- С. И. Набоко : 活火山区熱水系内部の交代酸性「溶結」凝灰岩 : p. 280-283, 表1, 文献2
- С. И. Набоко : 鉱床生成作用・岩石交代作用における火山作用の役割 : p. 284-287, 文献8

- Л. А. Комковаほか2 : 熱水による鉄と砒素の沈殿 : p. 288-293, 図3, 表1, 文献6
- Н. А. Озерваほか2 : クリル—カムチャツカ火山帯における現世水銀鉱化体について : p. 293-299, 図3, 表3, 文献6
- С. И. Набоко, С. Ф. Главатский : Камチャツカ半島ウズン火山における現世水銀—アンチモン—砒素硫化物鉱化作用 : p. 299-305, 図4, 表2, 文献2
- А. С. Огородова : Камチャツカ半島南カンバリ噴気区における現世金属鉱化作用 : p. 305-308, 表3
- Н. И. Удальцова, Л. Л. Леонова : Камチャツカ半島温泉水中のウラン, トリウム, 稀土類元素 : p. 308-313, 表1, 文献14
- В. И. Сотниковほか2 : Камチャツカ半島カルイム火山群の2・3の火山の噴出物中におけるモリブデンの分布 : p. 313-317, 表1, 文献4
- Н. А. Озероваほか2 : Менделеев火山水銀—硫化鉄鉱体の生成条件に関する問題によせて : p. 317-325, 図3, 表2, 文献14
- А. И. Кравцов : 火山成マグマ分化コンプレックス中の炭化水素の地球化学的生成様式と石油—天然ガス鉱床探査の主要な基準 : p. 325-328, 表2, 文献7
- И. А. Меняйлов : 火山作用における礫素 : p. 329-332, 図1, 文献12
- К. А. Скрипко : クリル列島エベコ火山酸性火口湖の弗化物沈殿作用に対する錯生成体の影響 : p. 333-336, 表2, 文献5
- Г. А. Карпов : 鉱液の化学的性質と鉱化作用の研究をめざす実験研究への噴気孔の利用 : p. 337-340, 表1, 文献10
- А. А. Кадик : マグマの自然対流条件下における深部火山溜からの熱の移動 : p. 341-344, 図1, 表1
- В. П. Волков, Г. И. Рузайкин : 火山発散物の化学平衡基準としての気体反応の熱力学的計算 : p. 344-348, 表3, 文献6
- В. П. Зверев : 火山区熱条件下における後マグマ過程の役割について : p. 348-354, 表5, 文献15
- Л. А. Башарина, Е. К. Мархинин : マントル・マグマの揮発性生産物としての火山ガス : p. 354-358, 図4, 表1, 文献7
- А. М. Чирков : Камチャツカ半島の2・3の火山と熱水系のガス中のラドン : p. 359-364, 図2, 表1, 文献4
- В. Ф. Вольнецほか2 : 成因問題と結びつけた火山発散成分の同位体組成の研究 : p. 364-368, 表4, 文献13
- В. А. Гриненкоほか2 : 活火山区における硫黄の外因性循環 : p. 368-374, 図1, 表5, 文献5
- В. И. Виноградов : 現世火山区熱水—交代硫黄の同位体組成 : p. 374-379, 表3, 文献8
- В. И. Виноградовほか3 : クリュエチエボ火山群とシベル—チュ火山の硫黄同位体組成 : p. 379-386, 図3, 表3, 文献6
- О. Г. Борисов, В. Н. Борисова : 後火山性気熱水活動の評価への火山成硫黄安定同位体 (δS^{34} 値)の利用 : p. 386-389, 表1, 文献1
- 第3回全ソ火山学会総会の決議 : p. 389-392

3) **Б. С. Левоник (1963)** : 「Вопросы экономической геологии (經濟地質学の諸問題)」, ソ連科学アカデミー出版所, 336 p., 図60, 表27, 文献

目次

第1部 鉱床成因論の基本的特徴

第1章 鉱床分布の規則性

地角斜型と卓状地型の地体構造 鉱石フォーメーション

第2章 鉱体生成位置規制要素

岩石の堆積相・岩石組成と鉱化過程との関係 鉱化作用に対するマグマ岩の組成・形態・賦存条件の影響 鉱床生成過程における構造要素 (factor of structure) の役割 鉱床生成過程における接触部の意味 割れ目構造地質 側岩の変質 鉱化体の累帯配列 構造形成過程と鉱床生成過程における継承性の原則

第3章 鉱床成因論の進歩と最終目標

内因性鉱床生成作用に関する概念の進歩 堆積性鉱床生成作用に関する理論的概念 鉱床成因論の最終目標 鉱山地域の有望性の評価を左右する地質学的要素

第2部 鉱床の地質学的評価の工学的・経済的指標

第4章 鉱床評価の基礎としての地質調査方法論

地質図幅・調査・探査——一つの地質調査過程 地質調査学領域における最新の方法について

第5章 鉱床評価の原則

調査結果による鉱床評価の概念 鉱床評価の種類 鉱床評価の指標とパラメータ 鉱床探査度の基準 評価パラメータ間の関係の説明

第6章 鉱量計算への誤差論の適用

偏差値の決定 相対偏差式の抽出 相対偏差を特徴づける修正係数の決定 相対偏差式の適用 探鉱ピット間隔の決定 誤差値の2項式決定法 ノルマル曲線式による平均相対偏差の決定 系統偏差・偶然偏差の区分とどちらかの除外 誤差論への意見

第7章 鉱床評価に際しての可採鉱量の工学的・経済的根拠

均等調査 探査費について 最終生産物の単価について 工業的評価の基本的側面について 金額表示による鉱床評価の問題によせて 評価作業の鑑査について 評価作業の最終目標

第3部 鉱物資源の経済学

第8章 ソ連における鉱物資源利用史

鉱物資源の定義 鉱物資源の規矩 (稼行最低平均品位: 最低可採量)

第9章 鉱量計算

鉱量の基本分類 記号表示による探査鉱量のカテゴリー 鉱量の基本計算

第10章 地質調査の効率とその指標

地質調査効率の定義 地質調査効率係数 平均鉱量・平均混合鉱量のカテゴリー 効率要素としての調査作業の組み合わせ度

第11章 地質調査効率の基準としての時間の要素

地質調査への基本投資効率 鉱物資源探査での新技術の効率

第12章 鉱物資源探査における効率のポテンシャル要素

効率のマイナスの要素としての地質調査事業における行き過ぎ

第13章 鉱物資源経済学発展での基本的位置

バランス内鉱量の好適な比率の根拠 格差経費を考慮した鉱床の評価 立地条件を拡大・考慮した鉱床の合理的選択を目的とする経済学的計算

第14章 鉱物資源量の配置に対する基本的要求

効率指数確定手段としての地質調査作業の企画 地質調査計画の限定選択

まとめ

4) A. A. Пронин(1971):「Основные черты истории тектонического развития урала (ウラル山脈地体構造発展史)」, ナウカ出版レニングラード支部, 215 p., 図17, 表1, 文献 606, 21 × 15 cm (露文)

目次

第1章 ウラル山脈バイカル期褶曲の問題によせて

後期先カンブリア紀 (リフェアン) 構造階の重量・断裂構造地質の特徴とその古構造地質の生成

条件

先カンブリア紀後期 (リフェアン) におけるウラル山脈の古構造地質条件

先カンブリア紀後期におけるウラル山脈の堆積作用条件

ウラル山脈のリフェアン期における噴出火山活動の規模と性質

ウラル山脈のリフェアン期スピライト-ケラトファイア層系に関する疑問

ウラル山脈バイカル期褶曲作用の問題と「アシンスキー」累層

ウラル山脈古生代褶曲作用・地殻隆起の絶対地質年代と「アシンスキー」累層として知られているモラッセ層系の量

ウラル山脈西斜面バイカル造構造期の構造運動の性質とその形成時間

第2章 ウラル山脈カンブリア紀の古構造地質条件とサライル期褶曲作用

ウラル山脈カンブリア紀古構造地質条件に関する疑問によせて

ウラル山脈初期カレドニア期 (サライル期) 褶曲作用, その拡がりと性質

近極ウラル地方, 極ウラル地方, パイ-ホイ地方

北ウラル地方と中部ウラル地方

バシュキール・ウラル地方, オレンブルグ・ウラル地方, オリ-イレカ河間ムゴジャール地方

ウラル山脈サライル構造運動活化期における地殻の揺動運動・褶曲運動の特徴

第3章 オルドビス紀におけるウラル地向斜区古構造地質条件の特徴とタコニアン構造運動活化期

タコニアン構造運動活化期

近極ウラル地方, 極ウラル地方, パイ-ホイ地方

北ウラル地方と中部ウラル地方

バシュキール・ウラル地方, オレンブルク・ウラル地方, ムゴジャール地方

タコニアン構造運動活化期における地殻運動の役割と意義

第4章 ウラル山脈シルル紀非造山期の古構造地質の特徴と後期カレドニア構造運動活化期

後期カレドニア構造運動活化期

近極ウラル地方, 極ウラル地方, パイ-ホイ地方

北ウラル地方, 中部ウラル地方, 南ウラル地方北部

南ウラル地方とムゴジャール地方

ウラル山脈後期カレドニア期モラッセ層系

ウラル山脈ポスト後期カレドニア期地殻運動の古構造地質条件に関する疑問によせて

第5章 ウラル山脈を例とした地向斜帯 (褶曲帯) 発達史における構造運動-マグマ活動輪廻の問題

超塩基性マグマ作用

花崗岩マグマ作用

第6章 ウラル山脈とロシア卓状地東部における東西性・亜東西性・北西-南東性構造帯と地体構造の形態と性質について

ウラル山脈カレドニア輪廻とバリスカン輪廻における構造地質発展過程での質的相違性について

第7章 ウラル山脈, 中部・東部カザフ地方, 西・北天山地方, サヤン-アルタイ地方の構造地質・構造地質発達史における類似性と相違性の特徴

ウラル山脈とその隣接地向斜褶曲区におけるカレドニア期地体構造輪廻の構造運動史

ウラル山脈バイカル期地塊と初期カレドニア期地塊の構造関係

5) 陳正祥 (1968): 「中国的石油資源及其開發 (中国の石油資源とその開發)」, 香港中文大学研究院地理研究中心研究報告第五號, 17頁, 図1, 26 × 18.5 cm (本文: 中国文, 抄録: 英文)

目次

1. 古文書にみられる石油の記録
2. 石油工業発展の経過

3. 天然石油の産出区と主な油田

松遼平野油田区 ジュンガル盆地油田区 河西回廊油田区 ツァイダム盆地油田区 タ
リム盆地油田区 トルファン盆地・ハミ盆地油田区 陝北・オルドス油田区

4. 油母頁岩の分布

5. 精油工業

6) 陳正祥 (1971): 「北京」, 香港中文大学研究院地理研究中心研究報告第四十號, 33頁, 表2, 文献33, 32.5 × 20.5 cm (中国文)

目次

1. 位置と自然環境

2. 市街の発達

3. 最近の都市改造

住宅建設 工業配置 交通機関 給水施設 電力事情 医療関係 緑化事業

4. 都市機能の合理化と区分

重工業区の発展とその内容 (石景山製鉄所・京西炭鉱など) 高等教育機関 (文教区) など

7) 陳正祥 (1970): 「西蔵自治区 (チベット自治区)」, 香港中文大学研究院地理研究中心研究報告第三十三號, 34頁, 表3, 32.5 × 20.5 cm (中国文)

目次

1. 山脈の分布と地形

2. 気候, 植生, 土壌

3. 土地の利用状況

4. 交通と商業・工業の建設

川蔵公路 青蔵公路 新蔵公路 ラサ-亜東公路 ラサ-沢東公路 黒河-善和公路な
ど 青蔵鉄道 北東-ラサ空路 河川交通 電力 鉱業 製鉄所 油田 炭田
(マサラ炭鉱)

5. 人口と社会制度

6. ラサ

7. 漢族とチベット族の歴史的つながり

8) 陳正祥 (1971): 「中国的交通和運輸 (中国の交通と運輸)」, 香港中文大学研究院地理研究中心研究報告第五十號, 28頁, 表7, 32.5 × 20.5 cm (中国文)

目次

1. 鉄道

鉄道の歴史と発展 鉄道の現況 (幹線・支線・森林鉄道) 貨物量の変遷

2. 道路

幹線道路網 戦後の幹線道路建設状況 鉄橋の建設状況 自動車運輸

3. 水路

河川航路の歴史 現在の主要河川航路

4. 民間航空

空路の変遷と現状 旅客・貨物の増大状況 航空事業 (探鉱・農薬撒布その他)